

令和7年度

「消費者教育連携・協働推進全国協議会」

# 消費者教育フェスタ in 栃木

## 実施報告書

令和8年2月

公益財団法人消費者教育支援センター

## 目次

1. 事業の趣旨・目的 .....	3
2. 実施内容.....	3
(1)実施概要.....	3
(2)プログラム.....	4
(3)展示・交流団体紹介 .....	4
3. 広報について.....	10
4. アンケート結果.....	12
(1)事前アンケート.....	12
(2)事後アンケート(会場) .....	13
(3)事後アンケート(オンライン) .....	18

## 1. 事業の趣旨・目的

本事業では、消費者教育に携わる地方公共団体の担当者、消費者教育関係者並びにNPOや大学及び企業等の関係者が参画し、成年年齢引き下げやデジタル化の進展等の諸課題を踏まえた実践的な消費者教育に関する事例やノウハウを共有することで、各地域や各機関においてさらなる消費者教育の取組や実践につなげていくことや多様な主体の連携・協働の促進等を目的に行うものである。

### ■ テーマ

## 令和7年度消費者教育フェスタ 消費者教育と金融経済教育をつなぐお金の学び

成年年齢の18歳への引き下げ、ライフプランの多様化、キャッシュレス社会の進展など社会の急速な変化と経済的な自立に対応するため、お金の学びのニーズが高まっており、消費者教育においては、各自治体の消費生活センターが中心となり消費者の自立と消費者市民社会の形成への参画を目指して取り組んでいる。また、令和6年4月には、金融経済教育を充実させ金融リテラシーの向上に貢献するため金融経済教育推進機構（J-FLEC）が設立され各都道府県の金融広報委員会と連携して全国での普及・啓発に取り組んでいる。

このような背景の中、お金の学びをより充実させるためには、消費者教育と金融経済教育がより積極的に連携することが重要となってくる。

そこで「金融経済教育の推進を踏まえた消費者教育の在り方」を本フェスタの方向性に据えることとした。消費者教育と金融経済教育における『お金の学び』の連携を地域で推進していくために、今の時代に求められるお金の学びの在り方と連携推進に必要な視点や方策について、地域の関係者とともに考える場とする。

## 2. 実施内容

### (1) 実施概要

開催時期	2025年12月9日（火）		
開催	栃木県宇都宮市		
開催方法	現地開催及びオンライン配信		
現地会場	栃木県総合文化センター （メイン会場）特別会議室 （団体交流会場）第1会議室		
共催	栃木県、栃木県金融広報委員会		
後援	消費者庁、日本消費者教育学会、栃木県教育委員会、J-FLEC		
参加人数	会場 144人	オンライン	203人

## (2)プログラム

時間	プログラム	配信
13:00～13:05	開会 開催地あいさつ 文部科学省 栃木県	○
13:05～14:05	基調講演 「未来をつくるお金の学び」 お金の向こう研究所代表 田内 学 氏	○
14:05～14:25	取組説明 「消費者教育と金融経済教育に関する取組」 文部科学省 消費者庁 J-FLEC	○
14:25～14:35	取組報告 「栃木県における消費者教育の取組～金融経済教育との連携～」 栃木県 生活文化スポーツ部 暮らし安全安心課主査(消費者教育コーディネーター) 阿久澤 由紀子氏	○
14:35～14:45	休憩	
14:45～15:15	教材体験 「おこづかいゲーム～お金の学びは何か大事? 考えながら体験しよう!～」 栃木県金融広報委員会	
15:15～15:45	〈団体交流・意見交換〉 消費者教育や金融経済教育に関わる団体の展示紹介と交流・意見交換を行います 消費者教育・金融経済教育の取組団体	
15:45～16:25	〈グループディスカッション〉 「消費者教育と金融経済教育でつなくお金の学び」 参加者全員でお金の学びの在り方について理解を深め、それぞれの立場で何が できるかをグループで話し合います ファシリテーター 法政大学大学院准教授・消費者教育支援センター 首席主任研究員 柿野 成美 氏	
16:25～16:30	閉会あいさつ 文部科学省消費者教育推進委員委員長・東京農工大学監事 上村 協子 氏	

## (3)展示・交流団体紹介

会場においては、消費者教育実践団体と参加者の団体交流・意見交換を実施した。またオンライン参加者には、動画にて展示団体を紹介した。

### ■展示・交流団体とその紹介内容

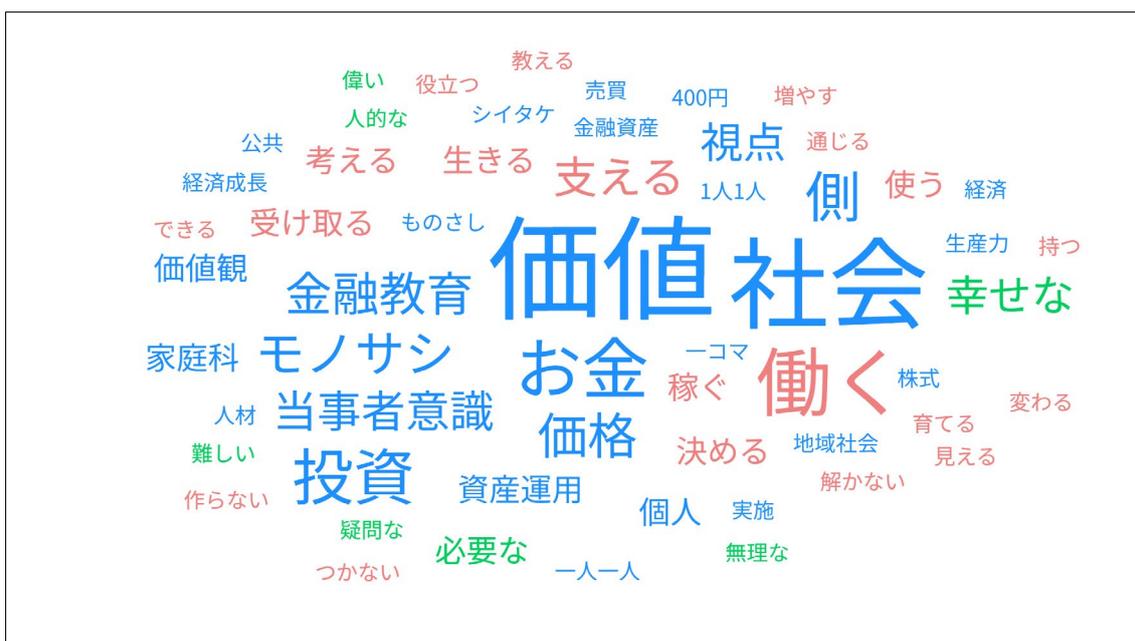
No.	団体	展示内容
1	株式会社足利銀行	地域の総合金融機関として、金融リテラシー向上に取り組み、銀行見学や金融経済教育の講師派遣等、柔軟に対応しています。
2	岡山県消費生活センター	大学と連携し、障害のある方向けに教材(一般企業就労編・就労継続支援事業所編)作成。また、夏休みに幼児向け消費者教育を実施!
3	一般財団法人家電製品協会	家電の業界団体として、スマートライフをテーマに小学校での学びに対応した Web 教材とその活用事例を紹介します。

4	関東財務局 宇都宮財務事務所	当事務所で取り組んでいる金融経済教育、金融トラブル防止や多重債務相談に関する資料展示・チラシの配布などを行っています。
5	金融経済教育推進 機構 (J-FLEC)	中立・公正な立場で金融経済教育を推進していくことを目的とした公的機関です。
6	公益財団法人消費 者教育支援センタ ー	「悪質商法対策ゲームⅢ」「見守りワークブックⅡ」「謎解きシリーズ」や「めざせシリーズ」など人気の教材を紹介。
7	消費者庁	体験型教材「鍛えよう、消費者力」、不当寄附勧誘防止法の周知啓発、エシカル消費や食品ロス削減に関する啓発資料等を展示。
8	一般社団法人消費 生活総合サポート センター	学校・行政・団体等へ消費者教育講師の派遣や委託事業を展開。消費者教育教材 2022 年消費者庁長官賞受賞教材の無料配布実績は 432 件。
9	公益社団法人全国 消費生活相談員協 会	消費者教育ですぐに活用できる小学生向けお金、電子マネーの教材と、大学生向けの「デジタル広告を考える講座」の紹介。
10	全国大学生協同 組合連合会	全国 213 の大学生協が加盟する全国組織として、全国や地域レベルでの学びあい励ましあいを通じて組合員活動の発展を目指しています。
11	中央労働金庫	若者の金融リテラシー向上を目的に制作した教材『新・大人社会へのパスポート』や金融教育への取り組みを展示・紹介。
12	株式会社栃木銀行	サステナビリティ取組の一環として、地域の金融リテラシー向上を通じ、持続可能な地域社会の実現に貢献しています。
13	栃木県金融広報委 員会	栃木県オリジナル教材「おこづかいゲーム」を通して、お金の学びは何が大事なのか、考えながら体験！
14	栃木県消費生活リ ーダー連絡協議会 佐野支部	県民誰もが安心して豊かな消費生活を送ることができるよう各地で出前講座を実施。本日は講座で実施している寸劇やクイズを披露。
15	とちぎ消費者ネッ トワーク	若者の消費者トラブル、消費生活に必要な知識、消費者問題解決力の習得等をテーマとして大学・専門学校・高校で講演会を開催。
16	適格消費者団体特 定非営利活動法人 とちぎ消費者リン ク	内閣総理大臣から認定を受け、事業者の不当な契約条項や不当な行為の差止訴訟を起こす権利を持つ栃木県唯一の団体です。
17	日本 FP 協会	ライフプランやお金に関するテキストの発行や出張授業を通じて金融経済教育を支援しています。
18	日本 FP 協会栃木 支部	栃木県民の金融リテラシー向上のためのイベントや、会員向けの継続教育研修会をボランティアで行うなどの活動を実施。
19	日本弁護士連合会	公正で持続可能な消費社会＝消費者市民社会に向けて、金融経済教育はどうあるべきか？日弁連は考え行動します。

20	明治安田生命保険相互会社	こどもたちのSDGsの理解促進に向けて、自社開発のSDGs教育ゲームを使用した出張授業を各地で開催しています。
21	文部科学省	全国の消費者教育の先駆的实践者等を「消費者教育アドバイザー」として、ご要望に応じて派遣しています。
22	文部科学省モデル構築事業株式会社 a.school	インターネットでの購入トラブルをテーマとした、中高生向けのゲーミフィケーション教材を開発しています。
23	株式会社 LIXIL	住宅設備メーカーとして、製品を安全安心にご使用いただくため、消費者に向けた講座や出前授業、教材配布などを推進しています。

#### (4) 田内学氏の基調講演後のマインドマップ

参加者に心に残ったキーワードを一つ記入してもらい、マインドマップを作成した。その結果をグループディスカッションにおいて会場で共有し、オンラインと会場をつなぐ工夫とした。



(5)当日の様子



主催挨拶 文部科学省 河村和彦課長補佐



開催地挨拶 栃木県 小野寺律子課長



基調講演 田内学氏



取組紹介 文部科学省 大谷也真登氏



取組紹介 消費者庁 中川壮一氏



取組紹介 J-FLEC 佐竹善幸氏



取組報告 栃木県 阿久澤由紀子氏



教材体験 栃木県金融広報委員会



教材体験 買い物ゲームの銀行



教材体験 買い物ゲームのお店



団体交流・意見交換



団体交流・意見交換 模擬講座



団体交流・意見交換



グループディスカッション

法政大学大学院 柿野成美氏



グループディスカッション



グループディスカッション 発表



会場の様子



総評 文部科学省消費者教育推進委員会

上村協子 委員長

### 3. 広報について

#### 1) チラシによる案内

紙媒体及び PDF にて

主なチラシの配付先)

共催・後援団体・展示団体

栃木県内の全市町村消費者行政担当

栃木県内の金融広報委員会

栃木県の関係機関（教育委員会、教育センター、高等学校、図書館等）

栃木県内の消費者団体、大学、PTA

宇都宮市 PTA 連合会、老人クラブ

地方自治体等の消費者教育担当窓口

全国の教育委員及び消費者行政部局（文部科学省担当より発信） など

#### 2) SNS による案内

消費者教育支援センターの Web サイト、メルマガ登録者

文部科学省 SNS、共催団体・後援団体の SNS

#### 3) 下野新聞

2025 年 11 月 1 日（土）掲載

サイズ：記事（横60mm×縦40mm）

カラー：モノクロ

令和7年度  
消費者教育フェスタ in 栃木

参加無料 要予約 申込締切 11月30日(日) 「未来をつくる お金の学び」

日程 令和7年(2025)年12月9日(火) 13:00~16:30(受付12:30~)

場所 栃木県総合文化センター 栃木県宇都宮市本町1-8

講師 田内学氏

基調講演

ベストセラー小説「きみのお金は誰のため」の著者

対象 お金の学びに関心のある方はどなたでも

定員/会場・オンライン各150名

お問合せ 公益財団法人消費者教育支援センター 03-5466-7341 festa2025@consumer-education.jp

令和7年度 消費者教育 フェスタ in 栃木 検索

チラシ

文部科学省
参加料  
無料

令和7年度  
消費者教育フェスタ in 栃木

# 消費者教育と 金融経済教育でつなぐ お金の学び

消費者教育と金融経済教育における「お金の学び」  
には何が大事なのでしょうか。  
今の時代に求められるお金の学びの在り方と  
連携推進に必要な視点や方策について、  
ともに考えましょう。

**日時** 令和7年 12月9日(火)  
13:00～16:30(受付12:30～)

**会場** 栃木県総合文化センター  
メイン会場 特別会議室 ※一部のプログラムを  
別棟交流会場 第1会議室 同時配信

**対象** 行政・教育関係者、企業・団体、  
テーマに関心のある方

**定員** ・会場  
・オンライン 各150名

**申込方法** Webサイトよりお申込みください  
11月30日(日)締切 先着順

基調  
講演



「未来をつくる  
お金の学び」

お金の向こう研究所代表  
元消費生活センターリーダー  
公益財団法人消費者教育  
推進センター 理事  
「お金の向こう」の編集

田内学氏

令和7年度 消費者教育フェスタ in 栃木

主催 文部科学省、公益財団法人消費者教育支援センター | 協賛 栃木県、栃木県金融広域委員会  
後援 消費者庁、日本消費者教育学会、栃木県教育委員会、J-FLEC (金融経済教育推進機構)

時間	プログラム	配信
13:00～13:05	開会 開催地あいさつ	文部科学省 栃木県 ○
13:05～14:05	基調講演 「未来をつくるお金の学び」 お金の向こう研究所代表 田内学氏	○
14:05～14:25	取組説明 「消費者教育と金融経済教育に関する取組」 文部科学省 消費者庁 J-FLEC	○
14:25～14:35	取組報告 「栃木県における消費者教育の取組～金融経済教育との連携～」 栃木県 生活文化スポーツ部 くらし安全安心課 課長(消費者教育コーディネーター) 阿久澤 由紀子氏	○
14:35～14:45	休憩	
14:45～15:15	教材体験 「おこづかいゲーム～お金の学びは何が大事? 考えながら体験しよう～」 栃木県金融広域委員会	
15:15～15:45	(団体交流・意見交換) 消費者教育や金融経済教育に関わる団体の展示紹介と交流・意見交換を行います 消費者教育・金融経済教育の取組団体	
15:45～16:25	(グループディスカッション) 「消費者教育と金融経済教育でつなぐお金の学び」 参加者全員でお金の学びの在り方について理解を深め、それぞれの立場で何が できるかをグループで話し合います ファシリテーター 法政大学大学院准教授・消費者教育支援センター 首席主任研究員 柳野 成美 氏	
16:25～16:30	閉会あいさつ 文部科学省消費者教育推進委員会委員長、東京農工大学 上村 協子 氏	

**会場アクセス**

栃木県総合文化センター 〒320-8530 栃木県宇都宮市本町1-8

JR宇都宮駅(西口) バスご利用の場合 「東庁前」(東武東上線) 停留所下車 徒歩約5分  
徒歩の場合 約20分(1.7km)

東武宇都宮駅(東口) 徒歩約10分(約700m)

※会場までご利用の場合、乗り換え駐車場をご利用ください。  
駐車料金は「消費者教育フェスタ」事務局にてご請求ください。



**問い合わせ先**  
文部科学省総合教育政策局  
男女共同参画共生社会学課・安全課消費者教育推進係  
TEL)03-5253-4111(内線2260)

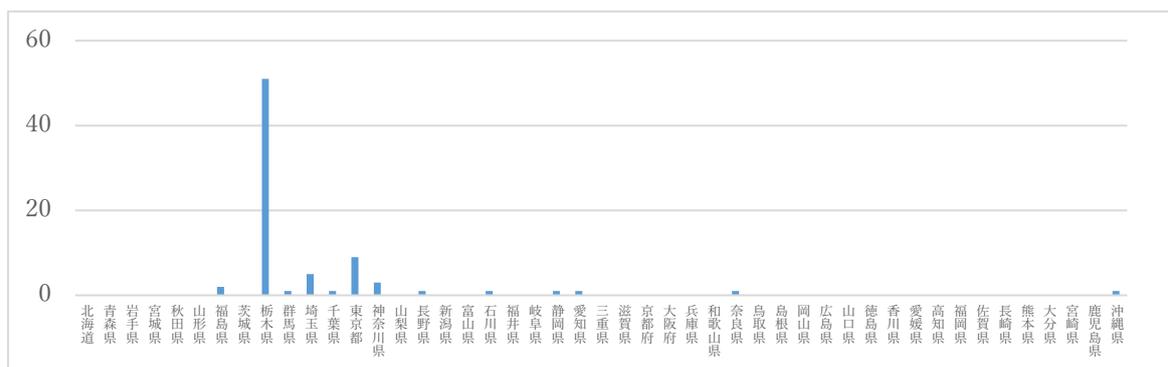
申込について(委託事業者)  
公益財団法人消費者教育支援センター  
TEL)03-5466-7341  
Eメール) festa2025@consumer-education.jp

## 4. アンケート結果

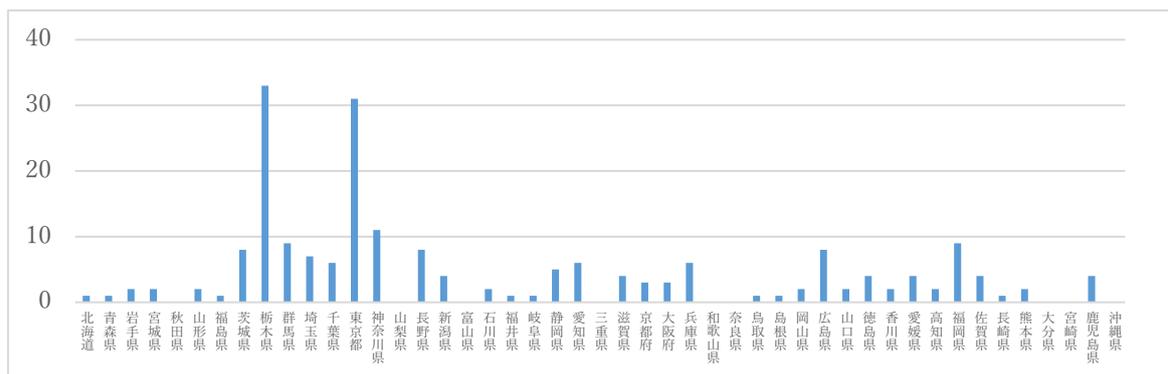
### (1) 事前アンケート

質問 お住まいの地域を選択してください

<会場参加> n=78



<オンライン参加> n=203



質問 「消費者教育フェスタ」をどこでお知りになりましたか？

回答	会場一般申込		オンライン	
	回答数	%	回答数	%
文部科学省からの案内	4	5.1	12	5.9
教育委員会	10	12.8	27	13.3
配布されているチラシ	31	39.7	61	30.0
後援、共催団体からの案内	16	20.5	46	22.7
その他	17	21.8	57	28.1
合計	78		203	

質問 参加したいと思ったきっかけは何ですか？（複数回答）

回答	会場	オンライン
	回答数	回答数
プログラム全体	51	114
講演内容（基調講演）	34	101
講演内容（取組説明）	12	50
講座内容（取組報告）	12	42
教材体験	12	
団体交流及び意見交換	9	
グループディスカッション	6	

## (2)事後アンケート(会場)

### 1. ご所属・職業等

回答	人数	%
行政関係者	18	23%
企業関係者	9	11%
団体職員・団体会員	20	25%
学校教育関係	4	5%
社会教育関係	0	0%
保育所・幼稚園・子ども園等教職員	0	0%
小学校教職員	0	0%
中学校教職員	0	0%
高等学校教職員	6	8%
大学その他教職員	5	6%
高校生	0	0%
大学生	1	1%
保護者・PTA 関係者	2	3%
その他	14	18%
無回答	0	0%
合計	79	100%

2. 本フェスタに参加して、消費者教育への理解が深まりましたか。

回答	回答数	%
とても深まった	43	54%
深まった	34	43%
あまり深まらなかった	1	1%
深まらなかった	0	0%
無回答	1	1%
合計	79	

3. 今日のプログラムを通じて、新たな気づきや学びがありましたか。

回答	回答数	%
はい	74	94%
いいえ	1	1%
どちらとも言えない	2	3%
無回答	2	3%
合計	79	

具体的に) ※記述は原文のまま抜粋

① 価値観・「自分の物差し」への気づき

- ・自分の価値の物差しを持てるようにしたいと思いました。
- ・個人ごとに価値観は異なるため、自分なりの物差しを持つことが求められる事
- ・価値は一人一人が決めるもの。価格と価値は違うという事。
- ・日々の考え方が偏ったものであったことに気づく事ができました。

② お金と社会とのつながりへの理解

- ・当事者意識の欠如
- ・お金は単なる数字ではなく「誰かに働いてもらうためのチケット」であり、その使い方が「未来の社会への投資」になるのだと気づかされました。
- ・社会を支えているのはお金ではなく「人」金融教育においても社会全体の仕組みをつたえる必要。
- ・単にお金の仕組みや経済のしくみを学ぶだけでなく、それを通じ社会活動としてどう社会に自分が携わり、貢献していくかが大切だと学んだ。
- ・個人の視点と社会の視点においてお金について考える事の重要性を再認識することができました。
- ・お金があれば大丈夫、年収＝人の価値ではないという事。お金があっても生産力が無ければ意味がないという事に改めて気づかされた。

### ③ 金融経済教育・消費者教育の捉え直し

- ・金融教育の根底に、価値とか社会とのつながりがあるというメッセージは響きました。
- ・消費者教育と金融教育はたて割ではなく、共通で考える事が多くあると思いました。
- ・金融教育と聞いて今回も金融商品や人生にかかるお金の話かと思っていましたが、まったく異なるものでした。社会を支えているのはお金じゃなくて人！当たり前的事ですが、お金の話になるとちょっと忘れがちです。

### ④ 交流による気づき等

- ・様々な団体様と交流ができ、とても勉強になりました。見方が広がり、とても深まりのあるプログラムでした。
- ・多様な考えがある中でも、共通の思いを持っているという事に気づけてよかった。
- ・いろいろな団体が様々な視点で消費者教育や金融教育に取り組んでいると知ることができました。
- ・様々な業界の方と意見交換ができ、新たな気づきがありました。
- ・同じグループの方から、高校生の実態を教えて頂き、価値観の違いに驚きました。銀行関係の方のお話もとても参考になりました。
- ・グループで、七歳のシングルパパが自分の現状に不安を感じて講座を見つけてきたという話をしてくださいました。「今日はきて良かった」と言ってくれていたのがとても印象的でした。彼が話してくれた「時間は取り戻せない」「価値と価格は別物」の言葉に共感しました。

## 4. ご自身の今後の取組や活動、日常生活に役立つと思われましたか？

回答	回答数	%
とても役立つ	41	52%
役立つ	37	47%
あまり役立たない	1	1%
役立たない	0	0%
無回答	0	0%
合計	79	

具体的に) ※記述は原文のまま抜粋

### ① 教育の視点

- ・最近の消費者教育、金融教育の流れが分かりました。

- ・生活協同組合にとっての消費リテラシーをどう高めていくかという課題と金融リテラシーの向上というテーマは非常に似ていると感じました。入口が金融で出口が消費という考え方。

- ・団体展示で具体的なヒントを貰いました。

- ・今後金融教育を進めるにあたって加えていくべき視点

② 今後の活動・取組への活用

- ・学生との話や授業で活用したいです。子供や家族にゲームを通して社会との繋がりについて考えたい。

- ・今回の交流を通じて得られた考えを活動に反映していきたい。

- ・団体交流で意見交換、名刺交換ができたので、今後の活動に役立ちます。

- ・おこづかいゲームは消費者団体さんに教えてあげたいと思った。行政マンとして今後すごすのに消費者教育のわくに田内先生の話を意識する必要があると思った。

- ・職場での出前講座開催を検討してみたい。

- ・幅広い知識を得る事が出来、今後の活動の上でヒントを多くいただいた事です（金融系ゲーム、展示物）。

- ・それぞれの価値観を大切に消費、社会と繋がる消費の在り方を金融経済教育を通じてどう実現するのか、考えるヒントが色々あった。

③ 日常生活・価値観への活かし方

- ・自分の消費行動が世の中にどのように影響するのか考えながら買い物などに活かしていきたい。

- ・お金を増やすことが金融教育という事ではない。

- ・自分の日常の暮らし方自分の価値観を大切に（人は人）社会とのつながりの中で考える。

- ・「社会のため」という視点を持ちながら過ごしていきたい。

5. .多様な立場の方と交流することができましたか。

回答	回答数	%
大いにできた	41	52%
できた	29	37%
あまりできなかった	4	5%
できなかった	2	3%
無回答	3	4%
合計	79	

6. 参考になったプログラムをお聞かせください。(複数回答可)

回答	回答数
田内先生の基調講演	68
国や J-FLEC の取組説明	21
栃木県の取組報告	20
おこづかいゲーム体験	36
団体展示・交流	32
グループディスカッション	38
その他	0
合計	215

7. その他ご意見がありましたらご記入ください。※記述は原文のまま抜粋

①内容に関する意見

- ・おこづかいゲームの中で、今お子さんは現金での買い物場面が少ない為に「おつり」という言葉を知らないという現実には衝撃を受けました。大変勉強になりました。
- ・学生にも聞かせたい話が多かった。
- ・同じ目的に向かって活動している多くの方々と繋がれたことは幸せな時間でした。
- ・今後もこのような機会があれば参加したいと思います。
- ・初めは Web 参加の予定でしたが、他県で消費者教育に尽力されている方のご参加を知り、会場参加させて頂きました。リアルの良さを実感しました。
- ・おこづかいゲーム体験が楽しかった。ゲームの質が高かった。

②周知等に関する意見

- ・行政で色々やっているけど知られていないことが残念
- ・消費者リターンとして地域の人たちにも講座等を通して知らせたい。
- ・今回の参加は時間により大人だけでした。小中高大の学生たちがグループディスカッションを繰り返していくことが、まさに考え、育む事になると思います。

③運営に関する意見

- ・田内先生の話をもう少し聞きたかった。全体的に盛沢山でした。
- ・話をされる方に照明が当たらず、暗すぎた。顔を見ながら話を聞きたい。
- ・初めからグループ毎の座席だったのは悪くないですが、スクリーンが見にくかった。
- ・時間管理 おくれていました。
- ・スクリーンが見えにくかったです。基調講演の際、文字が滲んで見えなかった。とても有意義な内容でした。
- ・充実すぎるプログラムでした。1日行うのもありなのではないでしょうか。

- ・おこづかい体験はとても面白い取組だと思いますが、ゲームの流れ等を動画にし、開会前や休憩時に流すなどもう少しプログラム全体をゆったり流してもよいかと考えました（同じグループの方もそのような意見がありました）。全員できたらよいのですが少し残念でした。
- ・交流会での消費者リーダー会の寸劇等聞こえず、頑張って用意された方申し訳ない。もったいない。

### (3)事後アンケート(オンライン)

#### 1. ご所属・職業等

回答	回答数	%
行政関係者	46	46%
企業関係者	7	7%
団体職員・団体会員	10	10%
教育委員会（学校教育関係）	7	7%
教育委員会（社会教育関係）	0	0%
教職員（保育所・幼稚園・子ども園等）	0	0%
教職員（小学校）	3	3%
教職員（中学校）	1	1%
教職員（高等学校）	8	8%
教職員（大学その他）	4	4%
高校生	0	0%
大学生	1	1%
保護者・PTA 関係者	4	4%
その他	8	8%
合計	99	

#### 2. 本フェスタに参加して、消費者教育への理解が深まりましたか。

回答	回答数	%
とても深まった	34	34%
深まった	59	60%
あまり深まらなかった	5	5%
深まらなかった	0	0%
無回答	1	1%
合計	99	

3. 今日のプログラムを通じて、新たな気づきや学びがありましたか。

回答	回答数	%
はい	91	92%
いいえ	0	0%
どちらとも言えない	8	8%
無回答	0	0%
合計	99	

具体的に) ※記述は原文のまま抜粋

①金融経済教育の捉え直し

- ・金融教育には、社会とのつながりや人との関係性を考える視点が不可欠だと感じました。
- ・金融教育は資産運用教育ではないということ。
- ・金融教育で大切なのは、お金を増やすことではなく、どう社会貢献するかということだと感じました。
- ・金融教育は資産運用教育ではないということ。大切なのはお金をどう稼ぐか、使うかのみでなく、働く人がいるからお金を使うことができるということ。
- ・「働いて稼ぐことがむくわれる時代」という言葉に希望を感じました。
- ・社会を支えているのはお金を受け取った「人」であること。

②お金と投資に関する気づき

- ・価格と価値は全く別物である点に、改めて気づかされました。
- ・価値は自分で決めることだ、と気づきました。
- ・お金と、社会と、生活の関係に新たに気づきました。
- ・「投資だけすればよい」は人任せな考えであり、その資金を使って新しいものを生み出す労働者がいるから経済が成り立っているということが新たな気づきとなりました。
- ・若者はお金がないのに投資しなければいけないと焦っている。価値は一人一人が決めていけばいいという言葉が印象に残った。
- ・お金を増やすことが目的になりがちだが、社会のために働き、貢献することが幸せにつながるという考え方が心に残りました。
- ・投資により受け取ったお金でチャレンジするという考え方は新たな気づきとなりました。
- ・情報が無料化された時代に、思惑のある情報があふれ、若者が将来に不安を感じているという指摘に共感しました。
- ・投資を受けている立場、つまり社会に育てられている存在だという考え方に気づきました。

③その他

- ・様々な団体が幅広く取り組んでいることが改めて理解できた。
- ・文部科学省や消費者庁のみでなく、栃木県での動きも知ることができました。
- ・国の方針と基調講演の方向性のギャップ
- ・たくさんの団体が良い教材を提供していること

#### 4. ご自身の今後の取組や活動、日常生活に役立つと思われましたか？

回答	回答数	%
大いに役立つ	30	30%
役立つ	62	63%
あまり役立たない	6	6%
役立たない	1	1%
無回答	0	0%
合計	99	

理由) ※記述は原文のまま抜粋

##### ①教育の視点

- ・投資を国が煽っているように思えるが、本質を生徒に指導しなくてはならないと感じました。
- ・金融教育が金融商品教育にならないよう、人としてよりよく生きるためにどう行動したらいいかを考える授業をしたい。
- ・金融教育についての依頼はあるが、まだ自分の言葉で説明できる段階にありません。知識を深め、実施できるよう努力したいと思います。
- ・高校家庭科の授業で、経済の仕組みの本質に目を向けた内容を取り入れていきたいです。
- ・若い人たちに「働くとは何か」を主体的に考える機会を共有したいと思います。
- ・授業の中で、社会と自分のつながりを考えさせる問いかけを工夫したいと思います。
- ・すぐに取り入れるのは難しいと感じますが、単に金融商品を教えることの限界を改めて感じました。

##### ②今後の活動・取組への活用

- ・消費者教育を担当していますが、消費者トラブルや投資の話に偏りがちだったことに気づきました。今後は本日の学びを意識して取り組みたいです。
- ・学校や地域に向けた啓発事業をする際、参加者が受動的になりがちだと感じていましたが、自分ごととして受け取ってもらえる工夫が必要だと感じました。
- ・消費者教育で伝えることの一つに加えたいが、どのように盛り込めるかはこれから考えたい。

- ・出前講座や啓発資料の中に、社会との関わりという視点を少しずつ入れていきたいです。
- ・投資を焦らせるような啓発にならないよう注意したいと思いました。
- ・出前講座で、投資を焦ってはいけないということを自分の言葉で話せるようにしたい。

### ③地域活動・日常生活への活かし方

- ・ぼんやりとやりたいことがあったが、お金がないことを理由に諦めてきました。小さなことから始めてみようと思いました。
- ・まずは家庭の中で、お金に対する価値観について対話することから始めたいです。
- ・世の中の役に立つこと、子どもたちのためになることを考えつつ、お金と向き合っていきたいです。

## 6. 参考になったプログラムをお聞かせください。(複数回答可)

回答	回答数
田内先生の基調講演	97
国やJ-FLECの取組説明	21
栃木県の取組報告	30
団体紹介動画	14
その他	0
合計	162

## 7. 展示団体による取組紹介動画についてご感想がありましたらご記入ください。※記述は原文のまま抜粋

- ・多種多様な団体が消費者教育に携わっていることに改めて気づき、心強くなりました。
- ・具体的な取り組みが行われていることを知りました。
- ・ろうきんさんなど、身近な企業さんもあって、親近感が沸きました。
- ・様々な団体で経済に関する取り組みがなされており、時間の余裕のある限り活用させていただきたいと感じました。
- ・様々な団体の取り組み内容があるのだと初めて知った。動画が早かったので、じっくり閲覧したいです。
- ・動画のスピードが速く、リアルタイムでは内容をほとんど読むことができませんでしたが、見逃し視聴ができることに気づき、じっくり見ることができました。

## 8. ご意見がありましたらご記入ください。※記述は原文のまま抜粋

### ①プログラムに関するご意見

- ・消費者教育に金融経済教育の視点が抜けているのは、致命的な気がしました。縦割りでなく融合できないかなと考えました。基調講演はとても参考になりました。
- ・金融経済教育は知っていましたが、消費者教育というものがあることを把握していませんでした。
- ・具体的に消費者教育とはどのようなことなのか？金融経済教育とはどのように異なっているのか？といったことがよく理解できませんでした。しかしながら、視聴参加をして意義のある時間を過ごすことができたと感じております。
- ・自分の力で社会を変えられると田内先生もおっしゃっていらっしゃいましたので、微力ではございますがこれからも社会に貢献する活動ができるよう尽力して参ります。
- ・取組やサイトの紹介などはわかるが、効果的な啓発の仕方について、具体的にあればよかった。
- ・消費者庁や文部科学省、J-FREC さんの提供する啓発事業等を利用し、市民の消費者教育に役立てたい。

## ②運営に関するご意見

- ・現場で実践した具体的な授業の様子を紹介していただけるとありがたい。
- ・講演はコンパクトでよいので3人くらいの先生のお話が聞きたい。
- ・田内先生の講演で配布された資料が欲しい。
- ・人数限定ではなく多くの人に参加してもらった方がよいと思います。
- ・リモートでも聴くことができてよかった。
- ・田内先生の話をもう少しゆっくり聞きたかったです。
- ・田内先生との質疑応答時間がもう少し欲しかった。
- ・各市町の消費者行政担当へ基調講演の資料を配布してほしいです。